

# 令和4年度南陽市農業委員会活動方針

## 1. 基本方針

我が国の農業を取り巻く環境は、人口減少や農業従事者の高齢化、農産物国内市場の縮小や価格の低迷による農業所得の減少等により、担い手不足が深刻化しており、耕作放棄地の拡大が懸念されるなど、一層厳しさを増している。

また、近年では、大規模な自然災害が勃発しており、山形県内でも令和3年4月の凍霜害による農作物被害額は記録が残る昭和38年以降最悪の被害となり、本市においてもさくらんぼを始め果樹全般に大きな打撃を受けた。

さらに、全国的にイノシシなどの野生動物等による農作物への被害が急増しており、加えて、新型コロナウイルス感染症等の新たな感染症の発生やCSF（豚熱）等の家畜疾病の発生など、農業・食品産業への影響が懸念される事態が発生し、多くの課題に直面している。

農業は本市の基盤産業であり、農業の元気なくして本市の活力は生まれないことから、南陽市農業委員会においては、「かけがえのない農地と担い手を守り、力強い農業をつくる“かけ橋”」との組織理念のもとに、本市産業の根幹をなす農業の振興を担っていく必要がある。

これらの現状を踏まえ、新型コロナウイルス感染症により国産農作物の価値が高まる今、未来に希望の持てる農業経営の安定的継続及び地域農業の持続的発展のため、農業委員会としての責務と役割を認識し、現場の意見を積み上げながら農地利用の最適化の推進を図るとともに、担い手の確保・育成、諸制度の円滑な遂行に向けた活動を進めていく。

## 2. 活動方針

- ① 農地法等の関係法令を遵守し、農地法に基づく許可申請等の審議において、現地調査を実施し、速やかで適正な対応に努める。
- ② 農地利用の最適化（担い手への農地利用の集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、新規参入の促進）の推進のための活動に取り組む。
- ③ 関係機関と連携して、農業の担い手の確保、育成に向けた積極的な支援、協力を行うとともに、経営実態や意向、農地利用の状況等についての調査を実施し、効果的な情報提供活動を通して農地と担い手を守り活かす運動を進める。
- ④ 農地パトロールの結果を踏まえ、耕作放棄地を増やさない対策に取り組む。
- ⑤ 農地中間管理事業の有効活用を進め、地域の実情に合った農地集積の推進を図るために必要な農地の条件整備等に関する提言、支援等を行うことにより、効率的かつ安定的な農業経営の実現とともに、現場の実態に即した農政活動を展開する。
- ⑥ 農業者の福祉向上のため、農業者年金加入推進活動や啓蒙活動を行い、将来に希望の持てる農業経営を営むことができるよう情報提供に努める。